

施策の推進方針の見直しに関するポイント

下記図表のとおり、現行の施策の推進方針に見直しのポイントである4つの視点を取り入れるため検討をしてきました。これまでの検討結果から、「4. コロナ禍において必要な視点」の施策として、「3 情報保障のあり方の検証」を追加しました。その他の意見は、「4つの視点」を設定時に確認した各施策についての内容を深める具体的な意見となっています。以上を踏まえて、提言（案）の検討の参考にしてください。

○石狩市手話に関する基本条例に規定する施策を推進するための方針	○見直しのポイント「4つの視点」
1. 手話の普及啓発に関する事項 ア 市民向け手話出前講座 イ 研修や学習のための教材づくり ウ 市職員対象の手話研修会 エ 事業所向け手話研修会 オ 小中学校での手話出前授業 カ 市民が手話に親しむためのイベント キ 手話の普及啓発等の仕組みづくり	1. 災害時の対応 1 災害時の対応に関する手話出前講座 2 災害時に手話で情報取得のできる体制整備
2. 手話による情報取得及び手話の使いやすい環境づくりに関する事項 ア 手話による行政情報の発信 イ ICTを活用した環境づくり	2. 町内会、自治会等での手話の理解促進 1 聞こえない方や手話についての理解促進を図る情報発信 2 地域活動に参加するための情報保障
3. 手話による意思疎通支援の拡充に関する事項 ア 手話通訳者の人材育成 イ 手話通訳者の環境整備 ウ 手話通訳派遣制度のあり方の検証	3. 聞こえない子どもや保護者への支援 1 聞こえない子どもが手話を習得できる環境整備 2 保護者等が相談する際の体制整備
	4. コロナ禍において必要な視点 1 動画配信などによる周知啓発 2 オンラインシステムの活用 3 情報保障のあり方の検証

見直しのポイント「4つの視点」について、これまでの懇話会で出された意見です。

1. 災害時の対応

1 災害時の対応に関する手話出前講座

- 手話出前授業では災害時のロールプレイを実施しているが、今後もその時々の実情に合った内容での実施が必要だと思う
- 聞こえない人が町内会の防災訓練や会合に参加することで、災害が起きた時に助け合うことができるつながりを持つことが必要だと思う

2 災害時に手話で情報取得のできる体制整備

- 災害が起きた時は避難所に行くので、その際の情報保障として避難所に遠隔手話通訳用のタブレットパソコンを配置することが必要だと思う
全ての避難所に配置するのが難しいのであれば、聞こえない人が避難している避難所にタブレットパソコンを持って行くことでも良い
- 災害時の情報共有としてコミュニティアプリを利用した、グループメールや情報発信が必要だと思う
- 高齢でスマートフォンやタブレットパソコンを使えない方のため、また電源がなくても利用できるもので、すでに避難所に置いてある災害時支援バンダナと一緒に筆談ができるグッズが必要だと思う
- 聞こえない人が安心して過ごせるよう、日頃から広報や町内会の回覧板などで聞こえない人への支援方法の周知が必要だと思う
- 避難所では、ヘルプマークなどの目で見て分かる支援グッズを備え付けることが必要だと思う
- ブラックアウトなどの停電時の対応として、広報車で情報を周知しても聞こえない人は情報を取得できないので、町内会の会館やコミュニティセンターなど、事前に決めた場所に情報を掲示することが必要だと思う

2. 町内会、自治会等での手話の理解促進

1 聞こえない方や手話についての理解促進を図る情報発信

- 町内会や自治会に災害時支援バンダナを周知しているが、もっと身近に感じられるような周知が必要だと思う
- 「手話サークルの例会の後に、市役所ロビーで聞こえない人が集まっているから、是非、参加してください」など、石狩聴力障害者協会や手話サークルと一緒に方策を考えていきたい
- 町内会に対しては手話表現を覚えてもらうのではなく災害時のリスクを知ってもらう動画、企業に対しては研修で使える動画などが必要だと思う
- 挨拶や名前などテーマを絞った単発の講座を1年に数回（土曜日などに）開催するなど、親子で参加できる取組みが必要だと思う
- この親子で参加できる取組みは、PTA活動や子ども会活動、就学前の幼児とその保護者を対象にした託児付きの講座として実施することが望ましいと思う

（裏面に続きます）

2 地域活動に参加するための情報保障

- 災害時は行政の支援だけではなく、現場でのつながりも力を発揮することになるので、日頃から聴力障害者協会と町内会や学校などが連携できるように意識した取組みが必要だと思う
- 町内会の方が実際に聞こえない人と接することで、手話に興味を持ってくれたということがあったので、例えば、町内会で実施している既存のイベントにプラスアルファする形で聞こえない人や手話について学んでいただくなど、きっかけをどう作るのかということがポイントだと思う

3. 聞こえない子どもや保護者への支援

1 聞こえない子どもが手話を習得できる環境整備

- 手話を学ぶ際は、健聴の親だけではなく、兄弟や祖父母など他の家族も一緒に学ぶことが出来る環境が必要だと思う

2 保護者等が相談する際の体制整備

- 保健師の赤ちゃん訪問の際に「耳の聞こえが悪い」と相談されたら、関係部署と連携していくことと思うが、すぐに人工内耳というわけではなく、いろいろな選択肢があると良い
- 連携する際のケース会議等には専任手話通訳者も参加し、支援のあり方について検討すると良い
- ペアレントメンターの配置が必要だと思う
- 人工内耳をつけて普通学級に行くのか、聞こえない人としてありのまま生き生きと過ごしていくのか、考え方も多様な時代なので、保護者が相談できる場所が重要だと思う
- 気軽に相談できるよう、りんくる窓口等に支援方法や選択肢が掲載されているパンフレットを備付けておくと良い

4. コロナ禍において必要な視点

1 動画配信などによる周知啓発

- コロナ禍でイベントなど集まる機会が難しくなっていくので、自宅で学習できるような取組みが必要だと思う

2 オンラインシステムの活用

- 全国的に役所、病院、公共施設にタブレットを設置しオペレーターとつなぎ通訳を行う遠隔手話通訳の必要性が高まっている
- 聞こえない人が来ないので必要ないということではなくて、難聴者や高齢などにより聞こえなくなる人もいるので、幅広く対応できるようにしてほしい
- オンラインでの講座や研修会を開催する場合、メリットとデメリットを踏まえ目的に合った手段や方法でハイブリット方式なども検討すると良い

3 情報保障のあり方の検証

- 緊急事態宣言などにより、専任手話通訳者のみの限られた人材で遠隔手話通訳を含めた制度派遣について対応した場合の、情報保障のあり方について検証することが必要だと思う